



校長室だより

月立小学校 校長 鹿野田忠之
令和3年9月28日 発行
第 6 号

諦めない気持ち

2学期が始まり約1ヶ月が経ちました。21名の子供たちは、元気に学校生活を送っています。コロナ禍の中ではありますが、学校として、できる最大限の予防や対策を講じながら、安心安全な学校生活となるよう努めていきたいと考えています。

さて、少し前のことになってしまいますが、皆さんは東京オリンピック、パラリンピックを御覧になりましたか？開催に関しては賛否両論ありましたが、昔々陸上競技をしていた私にとっては、選手たちが成果を発揮するオリンピックの場があったということについては、よかったのではないかと（感染拡大につながったのではないかとという意見もあり、諸手を挙げてよかったといえない部分もあることは十分承知していますが…）と思っています。

そんな東京オリンピックの中で、印象に残っている場面が三つありました。

一つ目は、卓球ミックスダブルスの試合。ドイツチームに先行され、大きく点数が離れてしまい、誰もが（負けてしまったな…）と思ったのではないのでしょうか。しかし、そこからの水谷選手と伊藤選手の驚異的な粘り！何ともびっくりでした。そして、最後には勝って金メダル獲得！鳥肌が立ちました。

二つ目は、大橋悠衣選手の金メダル2個獲得。大橋選手のインタビューを聞くと、オリンピック前は、かなり絶不調でタイムも上がらず、出場辞退も考えた時期があったそうです。精神的にもきつかったでしょう。そんな時期や精神的な辛さを乗り越えての大活躍。本番の結果からだけでは分からない辛さがあったのだと思います。

三つ目は、池江璃花子選手の復活。皆さんもご存じのとおり、急性リンパ性白血病を患い、辛い治療やりハビリを行ったことが時々報道されていました。そのような段階を経て、オリンピックの大舞台に舞い戻ってきました。

辛い治療やりハビリがあったにも関わらず、驚異的な復活を遂げ、オリンピックの舞台で泳ぎ切った姿に、私自身、大変感動しました。



さて、この三つの出来事に共通するのは何だろうと考えたとき「諦めない気持ち」ではないかと思います。ニュースや本人たちのインタビューから、一人一人がオリンピックに向けての練習段階や当日の試合レースにおいて、辛さや大変さがあったということが伝わってきました。そんな中でも努力し続け、諦めない気持ちで臨み、大きな成果を勝ち取ったことは、本当にすばらしいことだったと思います。

子供たちは、これからどんどん成長していきます。その成長過程では「辛い」「嫌だ」「逃げたい」という、場面に数多く遭遇すると思います。そんなとき、すぐに諦めるのではなく、自分自身でできるところまで努力してみるといった気持ちになってほしいと願っています。大きな成果につながることはばかりではないと思いますが、諦めずコツコツ積み重ねることの大切さを、今後も子供たちに伝えていきたいと考えているところです。

月立っ子ギャラリー

8・9月もたくさんの行事の中で子供たちは成長しました。
そんな子供たちの元気な様子を御覧ください。



八瀬パラダイス 水生生物探し



捕まえた生物を慎重に運んで



不審者対応避難訓練でしっかり感想を述べました



着衣水泳 歩くのが大変…



着衣水泳 服のまま水に浮かぶ練習をしました



タブレットを使った学習にも慣れてきました

元気な21名の子供たちをこれからも応援してください。

子供たちの様子はホームページでも公開中 → <http://www.kesenuma.ed.jp/tsukidate-syou/>